

北里研究所・東洋医学総合研究所活動報告

所 長	花 輪 壽 彦(WHO 伝統医学 研究所協力センター長)
担当理事	土 本 寛 二
WHO 担当理事	山 田 陽 城
名誉所長	大 塚 恭 男

本年度は新棟 8 年目を迎え、診療・研究・教育・啓発を中心とした事業を展開した。

公益事業としては、これまで同様に WHO 伝統医学研究協力センター活動、研究活動、及び教育活動を行った。

1) 大学院・学部教育

大学院教育：花輪壽彦所長・教授は北里大学大学院医療系研究科「東洋医学」の指導教授（連携大学院客員教授）として「東洋医学」専攻の 7 名の大学院生の教育・研究指導を行った。山田陽城部門長は北里大学大学院感染制御科学府（学府長：山田陽城）の「和漢薬利用科学」の指導教授として 1 名の博士課程の大学院生及び 7 名の修士課程の大学院生の教育・研究指導を行った。研究指導は北里大学北里生命科学研究所（所長：山田陽城）の和漢薬物学研究室で行った。大学院感染制御科学府の清原寛章助教授、永井隆之室長補佐（専任講師）、松本司室長補佐（専任講師）、矢部武士主任（専任講師）も同大学院の基本技術講座を始め研究室所属大学院生の教育・研究指導を行った。

学部教育：花輪壽彦所長・教授は引き続き北里大学客員教授として薬学部（東洋医学概論）の講義を清原寛章室長、早崎知幸医師とともに行った。また、花輪所長・教授は医学部の講義を、また山田陽城部門長は兼担で薬学部（生薬学）の講義を担当した。金 成俊薬剤部長は、薬学部（漢方病院実習）の講師として薬剤部職員と共に薬学部学生に対し漢方実習の指導を行った。伊藤 剛漢方診療部副部長は、医学部（薬理学総論）の講師として医学部生に対し漢方臨床実習について東医研各部部长、室長の協力のもと指導した。また東医研からは 10 大学に講師を派遣し、東洋医学関連の講義を行っている。

2) 啓蒙活動

北里研究所・東洋医学総合研究所では東洋医学の啓蒙活動の一環として、10 月 14 日には第 6 回東洋医学健康フォーラムが開催され、約 300 名の

市民参加のもと、統一テーマ「こんな痛みに東洋医学 ～漢方・鍼灸の立場から～」により花輪所長の基調講演に続き、「漢方・鍼灸治療の実際」として施設紹介並びに治療風景をビデオにて紹介され、続いて東洋医学総合研究所医師によるパネルラウンドディスカッション、また漢方薬の試飲などが催された。

また、その他の活動として各種団体への講師の派遣、新聞雑誌への原稿提供、マスコミの取材等積極的に活動した。

3) 第 28 回医学生・研修医のための東洋医学セミナー開催

当研究所では東洋医学の教育活動を重要な役割のひとつと考えてきた。本セミナーは 28 回を数え毎年全国から熱心な医学生・研修医が集まり、東洋医学の基礎知識の習得と漢方・鍼灸治療の体験学習を行い、その後の学習や臨床に活用しているようである。平成 18 年度は 7 月 31 日から 5 日間の日程で開催され、北は北海道から南は鹿児島まで東洋医学に関心のある学生 22 名、研修医及び医師 9 名の参加があった。講習は、漢方・鍼灸の基礎理論から、臨床例による応用的な内容についてもカリキュラムに組み込み、さらに大学では聴くことのできない医史学や最先端の研究成果も紹介した。講師は花輪所長を筆頭に研究所のスタッフに加え、今回も当セミナーの趣旨にご賛同頂いた、先生方に特別講義や見学指導という形でご参加頂いた。4 日目の午後には東京都薬用植物園園長の北川重美先生による植物園の見学と特別講演「漢方薬と市販後の安全管理について」が行われた。最終日には当研究所顧問の大澤仲昭先生より「漢方をどう学ぶか」と題し、素晴らしいご講義を賜わることができ、聴講した所員にも大変興味深いものであった。また、受講生の最も関心のある実習は、漢方診療部・鍼灸診療部・薬剤部で充実した内容のもと長時間にわたり行われた。大学医学部では漢方医学の講義が必須科目となり、現代医療における漢方治療の必要性もさらに大きくなっている。医学生に対する標準的な漢方医学の教育については、現在各大学において試行錯誤で行われている。日本の伝統医学である漢方医学を継承してきた当研究所が北里東医研流のスタイルを明確に提示していく事が使命と考えている。今後も、斬新な企画を盛り込み、本セミナーの基本理念である「伝統医学の継承と発展のために」を目標に

努力していきたい。

4) WHO 伝統医学研究協力センター関係及び国際交流

12月5日より7日までの3日間WHO主催の公式会議として上海中医薬学学院において4th Meeting of Directors for Traditional Medicineが開催され、東医研WHO伝統医学研究協力センター・花輪壽彦センター長と小田口浩医師が出席し、これまでの北里東医研の研究協力センターの活動状況の報告並びに今後の活動とWHOおよび伝統医学研究協力センター間での相互連関についての討議を行った。また、清原寛章は10月19日に韓国大邱で開催された韓国WHO伝統医学研究協力センターの韓医学研究院主催のInternational Symposium on the Status and Future of Asian Traditional Medicineに伝統医学研究協力センター事務局長として出席し、日本漢方における研究開発の現状に関する講演を行った。

国際交流については、花輪壽彦所長が2月4日から5日まで東京で開催された日中韓におけるモデルと実際に関する統合医療の国際シンポジウムにおいて「日本漢方の現状と将来への見解」に関する講演を行った。山田陽城研究部門長は、6月18日から23日まで京都で開催された第20回国際生化学会・分子生物学会(20th IUBMB)において、シンポジウム「伝統薬物の科学的解明の新しい戦略」のオーガナイザーを務め、併せて座長、講演を行った。また、7月31日から8月3日まで米国・メイン州で開催されたGordon Research Conferenceでは、「植物由来の免疫調節多糖」に関する招待講演を行った。11月22日から25日まで香港で開催された2006 World Congress on Chinese Medicineでは、「漢方薬の免疫系と神経系に関する作用と薬効成分」についての招待講演を行った。また、5月と11月にはDNDi (Drugs for Neglected Disease *initiative*) の Scientific Advisory Committee 会議(会場はジュネーブとリオデジャネイロ)に出席し、天然物による熱帯病対策について討議した。

5) 特殊外来開設

漢方診療部の特殊外来として、レディースクリニック(内科系五野由佳理医師、婦人科系齋藤絵美医師)、トワイライト外来(夜間外来)として毎金曜日に外来担当医師の交代制により開設し、診療サービスの向上を図っている。

また、今後は患者様の多くの要望に応えるべく、東洋医学全般の診療に加え、北里研究所病院と連

携を進め、現代医学との融合した外来診療を提供できるよう更なる充実を図っていく予定である。

診療部門

所長	花輪壽彦
部門長	石野尚吾
漢方診療部	
部長	村主明彦
副部長	伊藤剛
副部長	及川哲郎
副部長	鈴木邦彦
医長	早崎知幸
医員	高橋裕子
医員	五野由佳理
特別研修医	有島武志(5/31まで)
特別研修医	齋藤絵美
特別研修医	卯木希代子(6/1~)
特別研修医	大塚静英(6/1~)
客員部長	柳澤紘
客員医師	関口敦子
客員医師	頼建守
客員医師	早崎理香(5/31まで)
客員医師	櫻井正智
客員医師	八代忍
客員医師	小田口浩
客員医師	大坪眞紀(4/1~)
客員医師	蒲生裕司(4/1~)

漢方診療の活動概要

北里東医研の診療部門及び薬剤部門は昨年度から、より親しみやすい漢方鍼灸治療センターの呼称を冠し、さらなる発展を目指している。

当研究所の漢方外来では、湯液を中心にした診療を行っている。当然のことながら、漢方独特の診察法である四診に基づいた随証治療であり、患者個人個人の病態に合わせたキメの細かい、テーラーメイド医療を実践している。

また全国からの患者様を受け入れるために、5つの診察室を毎日フルに活用している。受診時間に関しても、より幅広いニーズに応えるため「トワイライト外来」を設置している。金曜日のみではあるが夜7時まで診療を行い、従来受診できなかった患者への対応を図っている。

漢方診療専門機関である当診療部門には伝統的随証治療の修得と漢方医学の科学的解明を目的に全国、時に世界各地から多くの医師が集まる。受け入れにはいくつかのルートがあるのでここに紹介する。

第一は当研究所独自の漢方特別研修医師制度で

ある。所属する医局の教授や病院長などの推薦のもと、2年の年限で漢方医学の実際を会得することを目標にしている。1期2~3名を定員とする。漢方については初心者であっても、それぞれの専門分野では既に専門医として第一線で活躍している中堅医師が大半であり、各専門分野に関する最新の知見については、漢方常勤医が逆の立場で教わることも多く、互いに鼓舞されるところ大である。第二として、花輪壽彦所長が教授を兼任する北里大学大学院医療系研究科東洋医学の院生が、漢方診療の研修と漢方の基礎、臨床研究に携わっている。従来の個別性を大切に漢方に、EBMの新しい切り口を加えるべく日夜奮闘中である。第三は北里大学医学部学生の漢方外来見学で、同医学部公衆衛生の実習の一環として受け入れを要請されているものである。第四は少数であるが、個人的な依頼による短期見学（ただし運営会議において了承される必要あり）である。

月曜日午前は所長の指導外来枠となっており、先輩医師の指導のもと、特別研修医師あるいは大学院生が輪番で予診をとり、漢方医学的仮診断・処方（鑑別処方を付記）を決定した後、所長の本外来に臨む。漢方診療のプロセスを体得できる数少ない機会である。この他当研究所ではオーベン・ネーベン制を導入しており、オーベン外来への陪席の他、マンツーマンでの古典の読み合わせなどが行われている。

外来以外にも漢方を学ぶ機会が用意されている。新患検討会、医局薬局勉強会、フォローアップ検討会、古典勉強会、抄読会・リサーチカンファレンスなどである。このうち、新患検討会は、会に先立つ1週間の全新患を各担当医がプレゼンテーションする会である。この会で使用するデータベース作成の作業が特別研修医師に課せられる。新患ひとり一人の舌証・脈証・腹証・方剤等を打ち込んで行くきわめて煩瑣な作業である。しかし、陪席できなかつた漢方医の処方決定のプロセスをつぶさに検証することにも繋がり、目的意識をもって取り組めば、きわめて有益な漢方修得の機会となる。医局薬局勉強会は、生薬と漢方処方の合同勉強会。物心両面で医局と薬局の距離が近いのも東医研の良さのひとつである。フォローアップ検討会は、外来診療で経験した著効例や難治例など、注目すべき症例につき検討する会。古典勉強会では、小曾戸医史学研究部長による傷寒論など古典の概説が行われ、古典に一段深く接し理解する、非常に貴重な機会となっている。リサーチカンファレンスは、研究面での検討や結果報告を行う機会として、臨床研究部と合同で行っている。

医局には専用の百味箆筒が用意されていて、自

身で自由に漢方薬を調合し服用することができる。研修医には研修期間中に大方の処方については、必ず煎じてその味・におい・服薬のしやすさ等を体得するよう要求される。個々の漢方薬の特徴をつかむと同時に、患者の立場にたった医療を感得する貴重な体験である。

特別研修医師・常勤医も含め、医局員の大半は臨床研究部研究員および隣接する北里研究所病院総合内科医師を兼任している。必要があれば動物も含めた各種実験・研究も行える。また各種血液・生化学検査、画像診断、光学医療診断を行なうことも可能で、診療の自由度という点では申し分ない環境である。東医研から北里研究所病院には毎週上部消化管検査および下部消化管検査に人員を提供している。さらに、同病院の内科当直業務も分担し、万全な協力体制がとられている。

新棟に移転して6年目を迎え、現状に甘んじることなく、気持ちを新たにさらなる診療・教育・研究の充実を図っていくことが、日本の本格的漢方診療研究機関のパイオニアを自認する北里・東医研の使命である。

原著論文

- 1) 大屋敦子, 村主明彦, 石野尚吾, 花輪壽彦, 三宅秀彦, 横田明重, 中井章人: 月経前症候群の漢方治療についての検討, 日本産婦人科学会東京地方部会誌, 55(1): 525-528 (2006)

著書

- 1) 花輪壽彦, 共著; よりよく生きる一真の健康長寿とは? - 浜松医科大学〈公開講座〉第6弾, 静岡新聞社 (2006)
- 2) 花輪壽彦, 編著: 最新処方で体質改善漢方使いこなし術, 小学館文庫 (2006)
- 3) 石野尚吾, 他: 腰痛症・肩凝り (分担執筆), 最新処方で体質改善、漢方使いこなし術, 花輪壽彦監修、小学館文庫、pp154-pp 164、小学館 (2006)
- 4) 伊藤 剛, 他: うつ病・自律神経失調症・冷え症 (分担執筆), 最新処方で体質改善、漢方使いこなし術, 花輪壽彦監修、小学館文庫、pp196-pp 205、pp216-pp 220、小学館 (2006)
- 5) 及川哲郎, 他: 便秘・食欲不振・痔 (分担執筆), 最新処方で体質改善、漢方使いこなし術, 花輪壽彦監修、小学館文庫、pp136-pp 145、pp150-pp 153、小学館 (2006)
- 6) 鈴木邦彦, 他: 高血圧・低血圧・貧血 (分担執筆), 最新処方で体質改善、漢方使いこなし術, 花輪壽彦監修、小学館文庫、pp123-pp 135、小学館 (2006)

- 7) 早崎知幸, 他: 風邪をひきやすい・アレルギー性鼻炎・花粉症・癌 (分担執筆), 最新処方では体質改善、漢方使いこなし術, 花輪壽彦監修、小学館文庫、pp146-pp 149、pp187-pp 195、小学館 (2006)
 - 8) 高橋裕子, 他: 動悸・息切れ・むくみ (分担執筆), 最新処方では体質改善、漢方使いこなし術, 花輪壽彦監修、小学館文庫、pp115-pp 122、小学館 (2006)
 - 9) 五野由佳理, 他: 頭痛・認知症 (痴呆症)・神経痛 (分担執筆), 最新処方では体質改善、漢方使いこなし術, 花輪壽彦監修、小学館文庫、pp165-pp 177、小学館 (2006)
 - 10) 有島武志, 他: 動脈硬化・勃起障害・糖尿病 (分担執筆), 最新処方では体質改善、漢方使いこなし術, 花輪壽彦監修、小学館文庫、pp94-pp 103、pp110-pp 114、小学館 (2006)
 - 11) 関口敦子, 他: アトピー性皮膚炎・不眠症・不妊症 (分担執筆), 最新処方では体質改善、漢方使いこなし術, 花輪壽彦監修、小学館文庫、pp182-pp 186、pp211-pp 215、pp221-pp 224、小学館 (2006)
 - 12) 齋藤絵美, 他: にきび・更年期障害・不妊症 (分担執筆), 最新処方では体質改善、漢方使いこなし術, 花輪壽彦監修、小学館文庫、pp178-pp 181、pp206-pp 210、pp225-pp 229、小学館 (2006)
 - 13) 柳澤紘, 他: 痛風・二日酔い (分担執筆), 最新処方では体質改善、漢方使いこなし術, 花輪壽彦監修、小学館文庫、pp104-pp 109、小学館 (2006)
- 東医研診療録から (28) 茯苓補心湯の使用経験, 漢方と臨床, 53 (1) : 123-125 (2006)
- 6) 関口敦子, 有島武志, 鈴木邦彦, 村主明彦, 花輪壽彦: 北里東医研診療録から (33) 茯苓杏仁甘草湯の使用経験, 漢方の臨床, 53(6) : 998-1003 (2006)
 - 7) 有島武志, 櫻井正智, 五野由佳理, 花輪壽彦: 北里東医研診療録から (29) 半夏湯が著効した一例, 漢方の臨床 53(2) : 310-315 (2006)
 - 8) 齋藤絵美, 五野由佳理, 花輪壽彦: 北里東医研診療録から (31) 葛根湯が有効であった小児慢性疾患の 2 例, 漢方の臨床, 53(4) : 623-626 (2006)
 - 9) 齋藤絵美, 高橋裕子, 花輪壽彦: 北里東医研診療録から (34) 半夏厚朴湯が有効であった月経困難症の 3 例, 漢方の臨床, 53(8) : 1360-1364 (2006)
 - 10) 大塚静英, 五野由佳理, 花輪壽彦: 北里東医研診療録から (38) パーキンソン病に小承気湯加芍薬甘草が著効した 1 例, 漢方と臨床, 53 (12) : 2060-2064 (2006)
 - 11) 頼建守, 及川哲郎, 早崎知幸, 花輪壽彦: 北里東医研診療録から (32) 大承気湯の長期投与が奏効した慢性疾患の 2 例, 漢方の臨床, 53 (5) 821-831 (2006)

症例報告

- 1) 村主明彦, 伊藤剛, 鈴木邦彦, 吉田威, 花輪壽彦: 北里東医研診療録から (36) 顔面神経麻痺と余年に及ぶふらつきに大三五七散料が有効であった一例, 漢方と臨床, 53 (10) : 1680-1686 (2006)
 - 2) 伊藤剛, 鈴木邦彦, 村主明彦, 花輪壽彦: 北里東医研診療録から (30) 潰瘍性大腸炎症例に対する大桃花湯の使用経験, 漢方と臨床, 53 (3) : 441-446 (2006)
 - 3) 及川哲郎, 早崎知幸, 頼建守, 花輪壽彦: 北里東医研診療録から (35) 胃の痛み、不快に清熱解鬱湯が有効であった 3 症例, 漢方と臨床, 53 (9) 1550-1553 (2006)
 - 4) 鈴木邦彦, 伊藤剛, 村主明彦, 花輪壽彦: 北里東医研診療録から (37) 栝楼薤白半夏湯が有効であった冠攣縮性狭心症の一例, 漢方と臨床, 53 (11) : 1890-1895 (2006)
 - 5) 早崎知幸, 及川哲郎, 頼建守, 花輪壽彦: 北里東医研診療録から (28) 茯苓補心湯の使用経験, 漢方と臨床, 53 (1) : 123-125 (2006)
- ### 学会・研究会発表
- 1) 石野尚吾: 21 世紀の日本の東洋医学の進路, 第 57 回日本東洋医学会, 大阪, 2006. 6. 23-25
 - 2) 星野卓之, 及川哲郎, 蒲生裕司, 渡辺浩二, 伊東秀憲, 正田久和, 小田口浩, 若杉安希乃, 伊藤 剛, 花輪壽彦: 呼吸試験を用いた腸管機能研究～漢方薬の薬効評価への応用～, 第 5 回腸管の機能と免疫研究会学術集会, 東京, 2006. 1. 28
 - 3) 伊藤 剛, 及川哲郎, 花輪壽彦: 温熱生理学的にみた過敏性腸症候群の病態, 第 92 回日本消化器病学会総会, 九州, 2006. 4. 20
 - 4) 伊藤 剛, 井上愛子, 若杉安希乃, 及川哲郎, 花輪壽彦: 温熱生理学的にみた漢方薬の生理作用—当帰四逆加呉茱萸生姜湯について—, 第 57 回日本東洋医学会学術総会, 大阪, 2006. 6. 23-25
 - 5) 伊藤 剛, 井上愛子, 及川哲郎, 花輪壽彦: 海苔オリゴペプチドの冷え症に対する臨床的効果の検討(第 2 報)—単回摂取効果について—, 第 23 回和漢医薬学会大会, 岐阜, 2006, 8, 26-27
 - 6) 伊藤 剛, 井上愛子, 若杉安希乃, 及川哲郎, 花輪壽彦: デジタル体温計を用いた腋窩温によ

る冷え症の型別診断第 59 回日本自律神経学会総会，東京，2006. 11. 2-3

- 7) 武田邦彦，及川哲郎，花輪壽彦：防風通聖散による間質性肺炎の 1 例，第 57 回日本東洋医学会総会，大阪，2006. 6. 23-25
- 8) 早崎知幸，花輪壽彦：漢方薬の減量が奏効した 3 例，第 57 回日本東洋医学会総会，大阪，2006. 6. 23-25
- 9) 高橋裕子，花輪壽彦：むくみに壮原湯が有効であった 2 例，第 57 回日本東洋医学会総会，大阪，2006. 6. 23-25
- 10) 五野由佳理，及川哲郎，村主明彦，花輪壽彦：アルツハイマー病の行動異常と精神症状（BPSD）に対して漢方薬が奏効した 2 症例，第 57 回日本東洋医学会総会，大阪，2006. 6. 23-25
- 11) 有島武志，早崎知幸，大澤仲昭，花輪壽彦：精神症状を併発したバセドウ病に対する漢方治療，第 57 回日本東洋医学会総会，大阪，2006. 6. 23-25
- 12) 吉田麻美，大澤仲昭，福田泰樹，増井義一，吉田滋，有島武志，佐々木一郎，今川彰久，花房俊昭：漢方治療が有効と考えられたメタボリックシンドロームの一例，平成 18 年度日本東洋医学会関西支部例会，大阪，2006. 10. 29
- 13) 関口敦子，村主明彦，石野尚吾，花輪壽彦：当施設における月経前症候群症例検討，第 57 回日本東洋医学会学術総会，大阪，2006. 6. 23-25
- 14) 大屋敦子，村主明彦，石野尚吾，花輪壽彦，三宅秀彦，横田明重，中井章人：月経前症候群の漢方治療についての検討，日本産科婦人科学会東京地方部会，東京，2006. 9. 16
- 15) 齋藤絵美，花輪壽彦：芍帰調血飲が有効であった大腸憩室症の 1 例，第 16 回漢方治療研究会，東京，2006. 9. 23
- 16) 齋藤絵美，関口敦子，鈴木邦彦，村主明彦，石野尚吾，花輪壽彦：半夏厚朴湯が有効であった月経困難症の 3 例，第 57 回日本東洋医学会学術総会，大阪，2006. 6. 23-25
- 17) 卯木希代子，花輪壽彦：脊髄炎経過中のこむらがえりに痿証方が奏効した一例，第 16 回漢方治療研究会，東京，2006. 9. 23
- 18) 大塚静英，花輪壽彦：パーキンソン病に小承気湯加芍薬甘草が著効した 1 例，第 16 回漢方治療研究会，東京，2006. 9. 23
- 19) 柳澤紘，八代忍，五野由佳理，石野尚吾，花輪壽彦：鍼治療が奏効した反射性交感神経性ジストロフィー（RSD）の 2 症例，第 57 回日本東洋医学会学術総会，大阪，2006. 6. 23-25

20) 頼建守，西元慶治，山内浩，花輪壽彦：竜胆瀉肝湯が有効であった 20 症例の共通腹候およびその臨床症状，第 57 回日本東洋医学会総会，大阪，2006. 6. 23-25

21) 八代忍，若杉安希乃，村主明彦，花輪壽彦：関節リウマチに対する漢方治療の初期効果判定（関節マーカー測定を用いて），第 57 回日本東洋医学会学術総会，大阪，2006. 6. 23-25

22) 小田口浩，若杉安希乃，正田久和，伊藤秀憲，蒲生裕司，星野卓久，渡辺浩二，花輪壽彦：酸素飽和度と心拍変動で評価した香蘇散と半夏厚朴湯の相違，第 57 回日本東洋医学会学術総会，大阪，2006. 6. 23-25

シンポジウム等

- 1) Toshihiko Hanawa: Kampo medicine, its present role and future perspectives in Japan, International Symposium "Towards Integrative Medicine: Model and Reality in China, Japan, and the Republic of Korea", Tokyo, 2006.2.4-5
- 2) 村主明彦，石野尚吾，伊藤剛，早崎知幸，五野由佳理，八代忍：こんな痛みに東洋医学～漢方・鍼灸の立場から，第 6 回東洋医学健康フォーラム，パネルディスカッション，東京，2006. 10. 14

講演

- 1) 花輪壽彦：慢性頭痛の診療ガイドラインと漢方，第 91 回東洋医学フォーラム，東京，2006. 2. 2
- 2) 花輪壽彦：頭痛を中心とした慢性疼痛に対する漢方治療，第 35 回日本慢性疼痛学会ランチョンセミナー，東京，2006. 2. 24
- 3) 花輪壽彦：気剤について，日本東洋医学会・専門医制度委員会学術講演会，東京，2006. 4. 9
- 4) 花輪壽彦：老化と漢方～サクセスフルエイジング～，日本薬学会関東支部市民講座「くすりと健康 2006 春季講演会」，東京，2006. 6. 17
- 5) 花輪壽彦：漢方ってどんなもの？～漢方が注目されるわけ～，第 57 回日本東洋医学会学術総会市民公開講座，大阪，2006. 6. 23
- 6) 花輪壽彦：随証治療と疾患治療の有用性について，第 57 回日本東洋医学会学術総会，第 19 回伝統医学臨床セミナー，大阪，2006. 6. 23
- 7) 花輪壽彦，小田口浩：慢性頭痛患者に対する呉茱萸湯（TJ-31）の Randomized Controlled Trial について，第 57 回日本東洋医学会学術総会，第 22 回臨床東洋医学研究会，大阪，2006. 6. 23
- 8) 花輪壽彦：メタボリックシンドロームの治療における漢方の有用性，第 57 回日本東洋医学会

学術総会，座長，大阪，2006.6.24

- 9) 花輪壽彦：漢方臨床研究の展望，第57回日本東洋医学会学術総会，日本東洋医学会学術賞受賞講演，大阪，2006.6.25
- 10) 花輪壽彦：個の医療をめざしたEBMの蓄積～呉茱萸湯によるレスポンス限定RCTの実際から～，第23回和漢医薬学会シンポジウム2，東京，2006.8.26
- 11) Toshihiko Hanawa：Review of centre's main achievements over the past five years, The fourth meeting of directors of WHO collaborating centers for traditional medicine Shanghai, China, 2006.12.5-7
- 12) 花輪壽彦：漢方各論—漢方診療の諸注意—，平成17年度漢方薬・生薬研修会，東京，2006.2.19
- 13) 花輪壽彦：漢方のまとめ，平成17年度漢方薬・生薬研修会，東京，2006.2.19
- 14) 花輪壽彦：漢方概論，平成18年度漢方薬・生薬研修会，東京，2006.4.16
- 15) 花輪壽彦：漢方各論（1）—免疫・アレルギー—，平成18年度漢方薬・生薬研修会，東京，2006.4.16
- 16) 花輪壽彦：現代医療における漢方の役割，日本東洋医学会卒前セミナー，東京，2006.8.21
- 17) 石野尚吾：生活習慣病の漢方治療，北里漢方医学セミナー（第8回），神奈川，2006.9.6
- 18) 村主明彦：急性疾患と漢方治療，北里漢方医学セミナー（第2回），神奈川，2006.1.18
- 19) 村主明彦：腹診概論及び実習，日本東洋医学会卒前セミナー，東京，2006.8.21-23
- 20) 伊藤 剛：疼痛性疾患と漢方治療，北里漢方医学セミナー（第6回），北里大学病院，神奈川，2006.6.7
- 21) 伊藤 剛：今日からできる健康法（免疫力をアップする生活），平成18年度えびす健康大学，東京，2006.11.30
- 22) 及川哲郎：慢性疾患と漢方治療，北里漢方医学セミナー（第3回），北里大学病院，神奈川，2006.2.15
- 23) 鈴木邦彦：高齢者疾患と漢方治療，北里漢方医学セミナー（第4回），神奈川，2006.3.8
- 24) 早崎知幸：子を知る，親を知る，目黒区教育委員会社会教育講座（1），東京，2006.1.31
- 25) 早崎知幸：子を知る，親を知る，目黒区教育委員会社会教育講座（3），東京，2006.2.4
- 26) 早崎知幸：子育ての材料と環境，目黒区教育委員会社会教育講座（1），東京，2006.1.31
- 27) 早崎知幸：癌疾患と漢方治療，北里漢方医学セミナー（第7回），神奈川，2006.7.12
- 28) 高橋裕子：女性疾患と漢方治療，北里漢方医学

セミナー（第5回），神奈川，2006.5.17

- 29) 五野由佳理：夏を元気に過ごすために，目黒区碑文谷保健センター健康講座，東京，2006.17.120
- 30) 卯木希代子：アレルギー疾患とやさしい漢方の話，渋谷区保健所喘息教室，東京，2006.10.27

講 義

- 1) 花輪壽彦：漢方医学入門，北里大学医学部第1学年「医学原論・医学原論演習」，東京，2006.4.11
- 2) 花輪壽彦：漢方概論，北里大学医学部レクチャー，神奈川，2006.6.21
- 3) 花輪壽彦：漢方治療の実際，北里大学医学部レクチャー，神奈川，2006.6.29
- 4) 花輪壽彦：東洋医学総論（漢方医学総論），浜松医科大学講義，静岡，2006.9.7
- 5) 花輪壽彦：東洋医学的診断・治療の実際（実習），浜松医科大学講義，静岡，2006.9.7
- 6) 花輪壽彦：東洋医学概説，北里大学大学院講義，神奈川，2006.10.5
- 7) 花輪壽彦：腎・尿路の東洋医学，北里大学医学部4学年後期特別講義，神奈川，2006.11.21
- 8) 村主明彦：漢方概論，北里大学医学部レクチャー，神奈川，2006.6.27
- 9) 伊藤 剛：東洋医学を看護に生かす，東洋医学講義，山梨県立大学看護学科，山梨，2006.5.25
- 10) 伊藤 剛：漢方総論，公衆衛生学臨床実習講義，北里大学医学部，東京，2006.4.24，2006.5.22，2006.6.12
- 11) 伊藤 剛：東洋医学と西洋医学，医療論，静岡県立大学看護学部，静岡，2006.5.30
- 12) 伊藤 剛：東洋医学について（現状と展望），特別講義（薬理学総論），北里大学医学部，神奈川，2006.6.29
- 13) 及川哲郎：漢方概論，北里大学医学部レクチャー，神奈川，2006.6.20
- 14) 早崎知幸：東洋医学概論，北里大学薬学部，東京，2006.4.12，2006.4.26，2006.5.10，2006.5.17，2006.5.24
- 15) 有島武志：漢方理論（漢方四診・生薬学・処方学），第3回大阪漢方塾，高槻，2006.8.15-18

その他

- 1) 花輪壽彦：漢方Q&A21 スギ花粉症の治療 小青竜湯など処方，ALPHA CLUB283, P10 (2006)
- 2) 花輪壽彦：慢性頭痛の診療ガイドラインと漢方，第91回東洋医学フォーラム，東京（2006）

- 3) 花輪壽彦：漢方Q&A22 うつの不眠など 加味帰脾湯使う，ALPHA CLUB284，P11 (2006)
- 4) 花輪壽彦：漢方Q&A23 就寝時のほてり 三物黄芩湯効く，ALPHA CLUB285，P13 (2006)
- 5) 花輪壽彦：漢方Q&A24 慢性じんましんは消風散や香蘇散，ALPHA CLUB286，P7 (2006)
- 6) 花輪壽彦：漢方Q&A25 虚弱体質改善には小建中湯が一般的，ALPHA CLUB287，P6 (2006)
- 7) 花輪壽彦：漢方Q&A26 舌の痛みや乾きは麦門冬含む処方，ALPHA CLUB288，P4 (2006)
- 8) 花輪壽彦：漢方Q&A27 わき・陰部の湿しん 竜胆瀉肝湯が効果，ALPHA CLUB289，P13 (2006)
- 9) 花輪壽彦：漢方用語の基礎知識⑨ 五臓の臨床応用，漢方医薬学雑誌 14(2)：41 (2006)
- 10) 花輪壽彦：漢方Q&A28 アトピー性皮膚炎二段構えで治療，ALPHA CLUB290，P9 (2006)
- 11) 花輪壽彦：漢方用語の基礎知識⑩ 陰陽の概念，漢方医薬学雑誌 14(3)：70 (2006)
- 12) 花輪壽彦：漢方Q&A29 脳梗塞後の麻痺 続命湯など処方，ALPHA CLUB291，P8 (2006)
- 13) 花輪壽彦：漢方Q&A30 チック治療には抑肝散など処方，ALPHA CLUB292，P12 (2006)
- 14) 花輪壽彦：高齢化と漢方～サクセスフル・エイジング～，悠遊会，神奈川，2006. 10. 21
- 15) 花輪壽彦：漢方なんでも道場，日本経済新聞毎週火曜日夕刊連載，'06. 1. 17～12. 26
- 16) 花輪壽彦：東洋医学のススメ，腹圧性尿失禁，禅の友，平成 18 年 1 月号，曹洞宗総務庁
- 17) 石野尚吾：東洋医学のススメ，変形性膝関節症の鍼灸治療，禅の友，平成 18 年 2 月号，曹洞宗総務庁
- 18) 村主明彦：東洋医学のススメ，不眠と漢方，禅の友，平成 18 年 3 月号，曹洞宗総務庁
- 19) 伊藤 剛：東洋医学のススメ，季節病としてのうつ病と漢方治療，禅の友，平成 18 年 4 月号，曹洞宗総務庁
- 20) 伊藤 剛，渡邊賀子，他：冷え性（女性の病気 11），名医の最新治療 79，pp106-107，朝日新聞社 (2006)
- 21) 伊藤 剛：体の深部温うまく調節，元気悠々，日本経済新聞 (NIKKEI プラス 1)，18 面，2006. 1. 7，日本経済新聞社
- 22) 伊藤 剛：「冷房病」対策は先手で，生活，朝日新聞，25 面，2006. 7. 12，朝日新聞社
- 23) 伊藤 剛：夏の冷え症，元気のひけつ，朝日新聞，3 面，2006. 8. 27，朝日新聞社
- 24) 伊藤 剛：冷えとりダイエット，日経ヘルス 2 月号，pp16-32，日経 BP 社 (2006)
- 25) 伊藤 剛，村主明彦：今年こそ花粉症に勝つ，Tarzan 459 号，pp79-89，株式会社マガジンハウス (2006)
- 26) 伊藤 剛：女性と健康「冷え症」(1)，生活と自治 2 月号，pp25，生活クラブ事業連合生活協同組合連合会 (2006)
- 27) 伊藤 剛：女性と健康「冷え症」(2)，生活と自治 3 月号，pp25，生活クラブ事業連合生活協同組合連合会 (2006)
- 28) 伊藤 剛：夏の冷え性即効解決マニュアル，日経ヘルス 8 月号，pp81-86，日経 BP 社 (2006)
- 29) 伊藤 剛：かぜに負けるな！，SEVENTEEN 1 月号，pp130-133，集英社 (2006)
- 30) 伊藤 剛：冷え症撃退，はなまるマーケット(とくまる)，2006. 1. 12，TBS テレビ
- 31) 伊藤 剛：冷え症撃退法，からだ元気科，2006. 2. 3，日本テレビ
- 32) 伊藤 剛：冷え症、しみ・シワ、頭痛、加齢臭，主治医が見つかる診療所(2時間スペシャル)，2006. 8. 21，テレビ東京
- 33) 伊藤 剛：冷え症(内臓冷え症)，はなまるマーケット(とくまる)，2006. 12. 13，TBS テレビ
- 34) 及川哲郎：東洋医学のススメ，ドライアイ、ドライマウスと漢方，禅の友，平成 18 年 5 月号，曹洞宗総務庁
- 35) 鈴木邦彦：東洋医学のススメ，循環器疾患の漢方治療，禅の友，平成 18 年 6 月号，曹洞宗総務庁
- 36) 早崎知幸：東洋医学のススメ，めまいと漢方治療，禅の友，平成 18 年 7 月号，曹洞宗総務庁
- 37) 高橋裕子：東洋医学のススメ，気管支喘息と漢方薬，禅の友，平成 18 年 8 月号，曹洞宗総務庁
- 38) 五野由佳理：東洋医学のススメ，認知症と漢方薬，禅の友，平成 18 年 9 月号，曹洞宗総務庁
- 39) 齋藤絵美：東洋医学のススメ，月経困難症と漢方，禅の友，平成 18 年 10 月号，曹洞宗総務庁
- 40) 齋藤絵美(分担執筆)：卵巣腫瘍の診断，とくに臓器診断と良悪性の鑑別，画像診断卵巣腫瘍のすべて，メジカルビュー社(2006) p100-115
- 41) 齋藤絵美(分担執筆)：治療に関する基礎知識，卵巣癌の化学療法，卵巣腫瘍のすべてメジカルビュー社(2006) p144-149
- 42) 齋藤絵美：特定非営利活動法人 医療教育研究所薬剤師生涯研修プログラム「漢方・生薬シリーズ」，『産婦人科の漢方治療』(全2講座) 2006/12/28 配信
<http://www.ime.or.jp/index.html>
- 43) 櫻井正智：東洋医学のススメ，アトピー性皮膚炎の漢方治療，禅の友，平成 18 年 12 月号，曹洞宗総務庁
- 44) 八代忍：東洋医学のススメ，足のしびれに対す

る漢方治療、禅の友、平成 18 年 11 月号、曹洞宗総務庁

-2. 鍼灸診療部

部長(兼務)	石野尚吾
医師(兼務)	伊藤剛
客員部長(兼務)	柳澤紘
客員医師	伊東秀憲
主任鍼灸師	石原武
主任鍼灸師	小山基
非常勤鍼灸師	掛川一五
非常勤鍼灸師	笹本真理
非常勤鍼灸師(兼務)	天野洋介

診療業務などの活動概要

鍼灸診療部では常勤鍼灸師 2 名と医師 4 名、非常勤鍼灸師 3 名が交代で診療にあたり、サポートの看護師と鍼灸部研修生 3 名が在籍しており、診療は祭日を除く月曜日から金曜日までの午前・午後と土曜日の午前を予約制として行っている。

毎週 1 回、診療スタッフと研修生を交えて新患の症状や病歴を始めとして、来院 10 回までの患者全員について治療効果の推移や臨床的な検討を継続的に行なってその後の治療に反映させている。

本年は 6 年以上にわたる連載記事(「鍼灸よろず相談」: 日本経済新聞)が終了したので前半までは記事を見たり、家族の紹介などで受診する患者も多かった。さらにインターネット検索などのメディアの情報を利用して来所するものも増加し、以前当診療部を受診して再診を希望するものや、他の医療機関からの紹介で来院する患者も徐々に多くなって来ている。病診連携を進めている北里病院各科からは 50 名の紹介がなされ、入院患者は 13 名あった。平成 18 年の 1 年間では、1 月～12 月までの年間総患者数が 15,324 人であり、そのうち過去 1 年以上来院がなく再び当診療部を受診した再初診の患者は 182 名であった。鍼灸の受診患者数は本年も例年のごとく来院状況は安定している。

毎年夏に恒例となっている医学生のための夏期セミナーでは、東洋医学の知識を得ようとする全国の医科大学から受講希望された医学生や、既に公私立の大学病院で活躍中の医師などが鍼灸の理論や治療法などに大いに興味をもって意欲的に受講している。特に好評である鍼灸実習においては、初めて鍼に触れる者がほとんどで、診察の仕方や経穴の取穴法、鍼の刺入方法などを実地に真剣に会得しようとする姿勢がみられた。また 10 月 14 日に北里ホールにて開催された一般向けの第 6 回東洋医学健康フォーラムでは、テーマである『こ

んな痛みには東洋医学』～漢方・鍼灸の立場から～に石野尚吾診療部門長が『鍼灸治療と腰痛』と題し、鍼灸部門のパネリストおよび講演を行った。

当研究所は WHO の協力施設でもあることから鍼灸診療の見学や、研修を希望しての問い合わせもあり各国の医療機関をはじめとし JICA などを通じて外国人医師達の見学者が来所している。

研究概要

- 1) 当鍼灸診療部における初診患者の来院契機の情報に関する調査
- 2) 疼痛に関する治療効果による経時的変化についての臨床的研究
- 3) 以下の諸疾患に対する鍼治療の臨床的效果、およびその影響に関する検討と解析を継続して行っている。〔変形性膝関節症、帯状疱疹後神経痛、顔面神経麻痺、慢性関節リウマチ、アトピー性皮膚炎、尿失禁、反射性交感神経性ジストロフィー(RSD)〕
- 4) 鍼灸治療の免疫機能への影響の検討 など

著書

- 1) 石原 武: 東洋医学関係分担執筆鍼灸 7 項目ー 中西医结合・オステオパシー・杉山和一・三陰交・毫鍼・灸・経筋療法について加筆および改訂執筆、『看護大辞典』(第 2 版)、医学書院、2006. 10.

講演

- 1) 石野尚吾: 現代医療における鍼灸治療の役割、(社)神奈川県鍼灸按摩マッサージ指圧師会、平成 17 年度第 4 回学術講習会、横浜、2006. 2. 5

講義

- 1) 石野尚吾: 鍼灸医学の基礎、日本大学医学部講義、東京、2006. 5. 11
- 2) 石野尚吾: 鍼灸概論、(社)日本東洋医学会卒前教育セミナー講義および実技公開、東京、2006. 8. 23
- 3) 石野尚吾: 鍼灸医学の基礎、慶応大学医学部講義、東京、2006. 9. 29
- 4) 石野尚吾: 鍼灸医学の基礎、自治医科大学医学部講義、栃木、2006. 10. 4
- 5) 伊藤 剛: 東洋医学(鍼灸総論)、山梨県立大学看護学科講義、甲府、2006. 4. 13
- 6) 伊藤 剛: 鍼灸総論、鍼灸各論(東洋医学総論): 浜松医科大学医学部講義、浜松、2006. 9. 14
- 7) 柳澤 紘: 鍼灸概論、(社)日本東洋医学会卒前教育セミナー講義、東京、2006. 8. 23

その他

- 1) 石野尚吾：変形性膝関節症の鍼灸治療，禪の友-2月号，曹洞宗宗務庁：p-16，2006.2.

・薬剤部門薬剤部

部門長（兼務）	山	田	陽	城
部長	金		成	俊
科長代理	緒	方	千	秋
主任	坂	田	幸	治
薬剤師	西	郡	秀	文
薬剤師	小	林	文	子
薬剤師	水	澤	深	雪（8/11 退職）
薬剤師	中	村	恵	子
薬剤師	坂	本	壮	一郎
薬剤師（嘱託）	高	際	真	奈美
薬剤師（嘱託）	室	生	真	千子（8/15 入職）
薬剤師（非常勤）	佐	々	木	花 奈
薬剤師（研究員）	矢	田	部	慶 子

研究概要

薬剤部では生薬調剤を基本としており、研究所における漢方の臨床薬局として、薬剤業務に関する諸問題改善を前提に各自が研究テーマを定め、テーマ毎に研究活動を行いその成果を学会等に報告している。今年度は各自が担当している研究内容について見直しを行い、年度内の達成目標を明らかにし、その成果を薬剤業務に反映できることを目標としたうえで研究計画を構築した。

今年度の研究内容は昨年の研究テーマを継続しており、一部の研究結果に関しては業務に反映し、また学会報告を行った。

- 1) 種子生薬の刻みの相違による成分抽出への影響
- 2) 漢方薬の抽出エキス量と濃度への影響
- 3) 外来患者の処方解析による服薬指導への応用
- 4) 漢方外来における疾患情報の服薬指導への応用
- 5) リスクマネジメントとしてのプレアボイド報告による薬剤師の医療業務における役割のあり方
- 6) 漢方薬局業務マニュアルの作成と活用
- 7) 病院実習書の作成と病院実習の充実
- 8) 漢方病棟業務の管理体制の充実
- 9) 繁用生薬・処方における品質評価方法の検討
- 10) 医療用漢方製剤のロット間の比較検討
- 11) 漢方薬と他剤併用時のPC活用による服薬指導の検討
- 12) 古典煎出方法の意義に関する科学的解析
- 13) 生薬標本の総合的な情報の構築

- 14) 煎じ薬含有の無機元素に関する調査
- 15) 煎じ薬のレトルトパックの有用性に関する検討
- 16) 初診患者の健康食品服薬状況の調査
- 17) 服薬時における医師情報の活用に関する検討
- 18) 漢方薬と西洋薬の併用による有用性の検討
- 19) 煎じ薬の苦みに対する飲料水によるマスキング効果の検討

薬剤業務の活動内容

患者から漢方薬の薬効などに関して、薬剤師に対する相談が増加傾向にある。健康食品やサプリメントを服用している場合が多く、サプリメントに関しては様々な製品が次々と販売されている。このようなサプリメントに関する情報の充実が望まれており、また漢方薬との併用において適切な服薬指導が実施されなければならない。現状では、初診患者に対して服薬指導時にサプリメントの服用についてインタビューを行っているが、充分な対応とはいえない。そこで、今年度は西洋薬やサプリメントなどに関する情報をPCに入力を行い、服薬指導に役立てることを検討している。

一方、生薬の品質評価について、試験データ以外に五官による評価を重視し、その結果を客観化することを検討している。このような情報を客観化することにより、常に一定の品質が保たれた生薬の確保を可能とし、漢方薬の治療効果に貢献することを目標としている。薬剤部職員の教育としては、今年度は『類聚方広義』の読解が終了し、患者への服薬指導を充実させるために、従来から用いている『生薬・処方マニュアル』の見直しを実施している。

教育啓蒙活動

薬学大学における教育活動として、帝京大学薬学部東洋医学概論は継続して実施されており、さらに明治薬科大学、北里大学薬学部大学院に講師を派遣し、病院漢方薬局の業務に関して講義を行った。

薬学生や医学生の実習も例年通り実施した。また海外からの研修生に対して薬剤部で実施している内容に関して講義を行った。

<教育（講義・実習）・見学研修>

○2006/3/6-17：春期薬学生病院実習、北里大学薬学部6名、明治薬科大学2名

○2006/4/27：北里大学医学部生2名薬局実習

○2006/5/10, 24, 31：帝京大学薬学部東洋医学概論（分担講義：金成俊）

○2005/5/23：北里大学薬学部大学院臨床薬学地域医療薬学（分担講義：金成俊）

- 2006/5/25 : 北里大学医学部生 2 名薬局実習
- 2006/6/9 : 韓国大邱カトリック医科大学教授 6 名見学研修
- 2006/6/15 : 北里大学医学部生 2 名薬局実習
- 2006/6/17, 7/1, 15 : 北里大学薬学部薬学部生各 30 名見学実習
- 2006/6/20, 27, 4: 明治薬科大学伝統医学概論(分担講義 : 金成俊)
- 2006/7/31-8/11: 夏期薬学生病院実習, 北里大学薬学部 4 名, 明治薬科大学 2 名
- 2006/8/2 : 医学生。研修医のための夏期セミナー薬局実習
- 2006/8/9: 共立薬科大学交換留学生(アメリカ)2 名見学講義実習
- 2006/8/21 : スペイン薬学生 1 名見学講義実習
- 2006/9/18 : ソウル自生韓方病院院長他 13 名見学研修
- 2006/10/17 : 韓国大邱韓医科大学理事、教授 4 名見学研修

招待講演

- 1) 金 成俊 : 臨床から考える生薬の品質, 薬用植物フォーラム 2006, 茨城, 2006/7/11
- 2) 金 成俊 : 知っておきたい漢方薬の知識, 明治薬科大学オープンリサーチセンター第 3 回公開講座, 東京, 2007/7/15
- 3) 金 成俊 : 漢方薬に加味される生薬の抽出に関する検討, 第 23 回和漢医薬学会大会若い研究者の集い, 2006/8/26
- 4) 金 成俊 : 漢方薬の服用中止と副作用との関連性についての検討, 日本東洋医学会東京都部会, 東京, 2006/10/29
- 5) 金 成俊 : 民間薬と漢方薬, NPO 法人ずし楽習塾, 神奈川, 2006/12/7

学会報告

- 1) 坂田幸治, 西郡秀文, 高際麻奈未, 緒方千秋, 金成俊, 山田陽城, 石野尚吾, 花輪壽彦 : 刻み生薬の製品ロット間における成分含量の変動及びその品質管理への応用, 第 57 回日本東洋医学会学術総会, 大阪, 2006/6/23 - 25
- 2) 西郡秀文, 坂田幸治, 金 成俊, 山田陽城, 石野尚吾, 花輪壽彦 : 煎じ薬レトルトパックの有用性, 第 57 回日本東洋医学会学術総会, 大阪, 2006/6/23 - 25
- 3) 緒方千秋, 水澤深雪, 中村恵子, 金 成俊, 山田陽城, 早崎知幸, 石野尚吾, 花輪壽彦 : 北里研究所東洋医学総合研究所入院患者の漢方治療における服薬指導の重要性, 第 57 回日本東洋医学会学術総会, 大阪, 2006/6/23 - 25

- 4) 金 成俊, 高際麻奈未, 坂田幸治, 緒方千秋, 山田陽城, 石野尚吾, 花輪壽彦 : 北里研究所東洋医学総合研究所漢方外来における処方解析からみた随証治療の意義(第 2 報), 第 57 回日本東洋医学会学術総会, 大阪, 2006/6/23 - 25
- 5) 緒方千秋, 坂田幸治, 金 成俊, 山田陽城, 花輪壽彦 : 漢方薬の服薬指導における疑義紹介の重要性, 第 16 回日本医療薬学会年会, 金沢, 2006/9/30-10/1
- 6) 中村恵子, 緒方千秋, 金 成俊, 山田陽城, 花輪壽彦 : 漢方薬と西洋薬の併用における有用性と服薬指導への活用, 第 16 回日本医療薬学会年会, 金沢, 2006/9/30-10/1
- 7) 小林文子, 金 成俊, 緒方千秋, 中村恵子, 山田陽城, 花輪壽彦 : 当研究所漢方薬服用患者における健康食品使用状況について, 第 39 回日本薬剤師会学術大会, 福井, 2006/10/8-9

その他

- 1) 金 成俊 : 韓医学のさらなる啓蒙・普及に向けて—ホジュン(許浚)博物館—, 薬事日報 10197 号, 2006/3/20
- 2) 金 成俊 : 大韓韓医師協会韓医師協会新築会館と許浚博物館を訪ねて, 漢方の臨床, 第 53 巻 4 号(2005)
- 3) 金 成俊 : 韓国韓医学通信(第 15 報), 漢方の臨床, 第 53 巻 5 号(2006)
- 4) 金 成俊 : 韓国韓医学通信(第 16 報), 漢方の臨床, 第 53 巻 6 号(2006)
- 5) 金 成俊 : 韓国韓医学通信(第 17 報), 漢方の臨床, 第 53 巻 7 号(2006)
- 6) 金 成俊 : 韓国韓医学通信(第 18 報), 漢方の臨床, 第 53 巻 9 号(2006)
- 7) 小林文子, 金 成俊 : 漢方薬とサプリメント, 薬局新聞(2006/11/29)
- 8) 金 成俊 : 韓国韓医学通信(第 19 報), 漢方の臨床, 第 53 巻 12 号(2006)

・ 研究部門

研究部門長 山 田 陽 城 (兼担)

-1. 基礎研究部

部長 (兼担) 山 田 陽 城 (北里大学北里生命科学研究所和漢薬物学研究室教授・同大学院感染制御科学府教授)

副部長 (兼担) 清 原 寛 章 (北里大学北里生命科学研究所和漢薬物学研究室助教授・同大学院感染制御

室長補佐 (兼担)	永井 隆之 (北里大学北里生命科学研究科和漢薬物学研究室講師・同大学院感染制御科学府講師)
室長補佐 (兼担)	松本 司 (北里大学北里生命科学研究科和漢薬物学研究室講師・同大学院感染制御科学府講師)
室長補佐 (兼担)	矢部 武士 (北里大学北里生命科学研究科和漢薬物学研究室講師・同大学院感染制御科学府講師)
研究員 (兼務)	金 成 俊 (薬剤部部長)
研究員 (兼務)	坂田 幸治 (薬剤部主任)
研究員 (兼務)	西郡 秀文 (薬剤部薬剤師)
客員研究員	布目 慎 勇
研究生	佐柳 友規 (北里大学大学院・感染制御科学府博士課程院生)
研究生	橋本 良子 (北里大学大学院・感染制御科学府修士課程院生)
研究生	平原 博貴 (北里大学大学院・感染制御科学府修士課程院生)
研究生	松崎 敏明 (北里大学大学院・感染制御科学府修士課程院生)
研究生	守屋 美千代 (北里大学大学院・感染制御科学府修士課程院生)
研究生	河村 有香 (北里大学大学院・感染制御科学府修士課程院生)
研究生	清水 ユリ子 (北里大学大学院・感染制御科学府修士課程院生)
研究生	横澤 恵美子 (北里大学大学院・感染制御科学府修士課程院生)

研究概要

基礎研究部では漢方薬の薬効の科学的解明を目的として漢方方剤や生薬の薬理及びその作用成分の解明や作用機序の生化学的解明に関する研究を行った。特に漢方処方薬の薬効解明では臨床効果と

の関連を検討するため臨床研究部との共同研究も進めた。研究テーマは「漢方処方薬の薬効解明」、「和漢薬中の多糖成分の役割の解明」、「和漢薬の新しい作用とその作用物質の解明」の3つに大別される。

本年度の研究テーマのうち、「漢方処方薬の薬効の解明」では、1) 小青竜湯の気道炎症に対する薬効機序とプロテオーム解析、2) 香蘇散の抗うつ作用の機序のプロテオーム解析、3) 加味温胆湯の抗うつ作用の機序の解析、4) 補中益気湯の粘膜免疫系に対する作用機序の解析について検討した。「和漢薬中の多糖成分の役割の解明」では、1) 和漢薬由来の腸管免疫調節活性を有する arabino-3,6-galactan 多糖中の活性発現オリゴ糖鎖の解明へのオリゴ糖鎖を指標とした多変量解析の適応とその和漢薬の品質管理への応用、2) 補中益気湯の粘膜免疫系の賦活化作用成分の解析、3) メシマコブ、ナイモウオウギ等の高分子多糖成分と腸管免疫系に対する作用の解析について検討した。「和漢薬の新しい作用とその作用成分の解明」では、1) 和漢薬などの植物素材からのマラリア、トリパノソーマ、ヘリコバクターピロリやインフルエンザウイルスなどに対する抗感染物質の探索研究、2) 炎症性腸疾患治療薬の開発を目的とした病態モデルの構築と和漢薬の作用ならびに作用成分の探索、3) 和漢薬の中樞神経系に対する作用の解析のための基盤研究と中樞神経疾患の新しい治療薬の探索について検討を行った。

また、基礎研究部ではこの他国内やタイ、エジプト、サウジアラビア、ノルウェー、フランスなどの国外研究機関および大学などとの種々の共同研究を継続して進めている。

原 著

- 1) H. Nishigori, S-J. Kim, K. Sakata, H. Yamada, S. Ishino, and T. Hanawa : Comparison between constituents of the extracts by decoction of adult and child does of Kampo formulas, *Kampo Med.*, 57(1), 37-44 (2006)
- 2) C. S. Nergard, H. Kiyohara, J. C. Reynolds, J. E. Thomas-Oates, T. Matsumoto, H. Yamada, T. Patel, D. Petersen, T. E. Michaelsen, D. Diallo and B. S. Paulsen : Structure and structure-activity relationships of three mitogenic and complement fixing pectic arabinogalactans from the malian antiulcer plants *Cochlospermum tinctorium* A. Rich and *Vernonia kotschyana* Sch. Bip. ex Walp, *Biomacromolecules*, 7(1), 71-79 (2006)
- 3) K. H. Nishiyama, T. Matsumoto, H. Kiyohara, A.

- Nishizawa, T. Atsumi and H. Yamada :
Suppression of Fas-mediated apoptosis of
keratinocyte cells by Chikusetsusaponins isolated
from the roots of *Panax japonicus* C.A. Meyer,
Planta Med., 72(3), 193-198 (2006)
- 4) T. Matsumoto, K. H. Nishiyama and H. Yamada :
Antiproliferative and apoptotic effects of
Butyrolactone lignans from *Arctium lappa* on
leukemic cells, *Planta Med.*, 72(3), 276-278
(2006)
- 5) Y. Jin, N. Hada, J. Oka, O. Kanie, S. Daikoku, Y.
Kanie, H. Yamada and T. Takeda : Synthesis of
model compounds related to an antigenic epitope
in pectic polysaccharides from *Bupleurum
falcatum* L. (II), *Chem. Pharm. Bull.*, 54(4),
485-492 (2006)
- 6) C. Ichino, N. Soonthornchareonnon, W. Chuakul,
H. Kiyohara, A. Ishiyama, H. Sekiguchi, H.
Namatame, K. Otoguro, S. Omura and H.
Yamada : Screening of Thai medical plant extracts
and their constituents for *in vitro* anti-malarial
activity, *Phyther. Res.*, 20(4), 307-309 (2006)
- 7) C. Ichino, H. Kiyohara, N. Soonthornchareonnon,
W. Chuakul, A. Ishiyama, H. Sekiguchi, M.
Namatame, K. Otoguro, S. mura and H.
Yamada : Anti-malarial activity of biflavonoids
from *Ochna integerrima* Merr., *Planta. Med.*,
72(7), 611-614 (2006)
- 8) H. Kiyohara, T. Matsumoto, T. Nagai, S-J. Kim
and H. Yamada : The presence of natural human
antibodies against pharmacologically active pectic
polysaccharides from herbal medicines,
Phytomedicine., 13(7), 494-500 (2006)
- 9) T. Shirahata, T. Sunazuka, K. Yoshida, D.
Yamamoto, Y. Harigaya, I. Kuwajima, T. Nagai, H.
Kiyohara, H. Yamada and S. mura : Total
synthesis, elucidation of absolute stereochemistry,
and adjuvant activity of trihydroxy fatty acids,
Tetrahedron, 62(40), 9483-9496 (2006)
- 10) T. Matsumoto, T. Hayasaki, Y. Nishimura, M.
Nakamura, T. Takeda, Y. Tabuchi, M. Obinata, T.
Hanawa and H. Yamada : Butyrate induces
necrotic cell death in murine colonic epithelial cell
MCE 301, *Biol. Pharm. Bull.*, 29(10), 2041-2045
(2006)
- 11) N. Ito, T. Nagai, T. Yabe, S. Nunome, T. Hanawa
and H. Yamada : Antidepressant-like activity of a
Kampo (Japanese herbal) medicine, Koso-san
(Xiang-Su-San), and its mode of action through
hypothalamic pituitary-adrenal axis,
Phytomedicine, 13(9-10), 658-667 (2006)
- 12) H. Kiyohara, T. Nagai, K. Munakata, K. Nonaka,
S. J. Kim and H. Yamada : Stimulation effect of
Japanese herbal (Kampo) medicine, Hochuekkito
on upper respiratory mucosal immune system,
eCAM, 3(4), 459-467 (2006)
- 13) A. Phrutivorapongkul, C. Ichino, N. Ruangrunsi,
A. Ishiyama, H. Sekiguchi, M. Namatame, H.
Kiyohara, K. Otogiro, H. Yamada and S. mura :
Anti-plasmocidal activity of bisbenzylisoquinoline
alkaloids from *Michelia figo* leaves, *Thai J. Health
Res.*, 20 (2), 121-128 (2006)

招待講演

- 1) H. Yamada: New strategy for scientific elucidation
of traditional herbal medicine , 20th IUBMB
International Congress of Biochemistry and
Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress ,
京都 , 2006. 6. 18~23
- 2) H. Yamada: Structure and mechanism of action of
plant cell wall polysaccharides having
immunomodulating activity, Gordon Research
Conference, Maine (U.S.A.), 2006. 7. 31~8. 3
- 3) 山田陽城: 和漢薬由来多糖の構造と薬理活性,
北陸大学学術フロンティア・サテライトミーテ
ィング (特別講演), 滋賀, 2006. 9. 13~14
- 4) 清原寛章: 和漢薬からの腸管パイエル板免疫機
能調節多糖の探索とその活性発現糖鎖構造の
解明, 北陸大学学術フロンティア・サテライト
ミーティング, 滋賀, 2006. 9. 13~14
- 5) 山田陽城: 代替医療と東洋医学 —科学的解明
による evidence を求めて—, 第2回北里大学
農医連携シンポジウム, 東京, 2006. 10. 13
- 6) H. Kiyohara: Recent Situation of R & D for
Traditional Japanese Herbal (Kampo) Medicine,
The 12th Anniversary of KIOM, International
Symposium on the Status and Future of Asian
Traditional Medicine, Korea, 2006.10.19
- 7) 山田陽城: 和漢薬の粘膜免疫系を介した抗感染
作用メカニズムの解析, 北里大学 21 世紀 COE
プログラム・富山大学 21 世紀 COE プログラム
ジョイント・シンポジウム, 東京, 2006. 11. 9.
- 8) H. Yamada : Action Mechanism and Active
Ingredients of Kampo (Japanese Herbal)
Medicines on Immune and Neural System , 2006
World Congress on Chinese Medicine , Hong
Kong , 2006.11.22 ~ 24
- 9) 山田陽城: 漢方薬の免疫系, 内分泌系, 神経系
に対する薬理作用の解析, 第6回日本臨床中医
薬学会 (特別講演), 東京, 2006. 11. 25

シンポジウム

- 1) 清原寛章, 山田陽城: 和漢薬からの多糖の粘膜免疫系調節への応用 (シンポジウム 1), 第 23 回和漢医薬学会大会, 岐阜市, 2006. 8. 26~27
- 2) 松本 司, 清原寛章, 山田陽城: 腸管免疫系に対する漢方薬の作用, 第 16 回天然薬物の開発と応用シンポジウム, 札幌市, 2006. 11. 16~17
- 3) T. Nagai and H. Yamada: Screening of anti-influenza viral and antimalarial substances from Kampo Medicines and Thai Medicinal Plants, The 7th Joint Seminar Recent Advances in Natural Product Research and Its Application, JSPS-NRCT Core University Program on Natural Medicine in Pharmaceutical Sciences, Toyama, 2006. 12. 1~3

学会発表

- 1) 佐柳友規, 矢部武士, 山田陽城: 組換えアデノウイルスを用いた色素上皮由来因子 PEDF の in vivo における神経保護効果の解析, 日本薬学会第 126 年会 (仙台), 2006. 3. 28~30
- 2) 稲垣弥生, 伊藤直樹, 矢部武士, 永井隆之, 花輪壽彦, 山田陽城: 慢性マイルドストレスによる神経幹細胞の減少に対する加味温胆湯の作用, 日本薬学会第 126 年会 (仙台), 2006. 3. 28~30
- 3) 高橋哲史, 松本 司, 山田陽城: 新規抗 *Helicobacter pylori* 活性物質の探索評価系の構築, 日本薬学会第 126 年会 (仙台), 2006. 3. 28~30
- 4) 三木和彦, 永井隆之, 佐々木寛朗, 坂本圭代, 木下 薫, 小山清隆, 山田陽城, 高橋邦夫: ビフラボノイドのインフルエンザウイルスシアリダーゼ阻害活性, 日本薬学会第 126 年会 (仙台), 2006. 3. 28~30
- 5) 永井隆之, 三木和彦, 佐々木寛朗, 桜井裕美, 木下 薫, 小山清隆, 高橋邦夫, 古畑公夫, 山田陽城: ビフラボノイド-シアル酸配糖体の抗インフルエンザウイルス活性の検討, 日本薬学会第 126 年会 (仙台), 2006. 3. 28~30
- 6) 中尾麻里乃, 永井隆之, 小寺義男, 大石正道, 前田忠計, 山田陽城: 漢方方剤「小青竜湯」の気道炎症モデルマウスに対する薬効発現機序のプロテオーム解析による検討, 日本薬学会第 126 年会 (仙台), 2006. 3. 28~30
- 7) 野口昌朗, 松本 司, 清原寛章, 牧野公子, 林修, 山田陽城: 粘膜免疫応答に及ぼす補中益気湯の影響, 日本薬学会第 126 年会 (仙台), 2006. 3. 28~30

- 8) 松木裕二, 高橋哲史, 市野 力, 松本 司, 山田陽城: 宿主由来因子介在性の *Helicobacter pylori* の増殖に対する和漢薬等植物素材の阻害作用の検討, 日本薬学会第 126 年会 (仙台), 2006. 3. 28~30
- 9) 松崎敏明, 清原寛章, 松本 司, 山田陽城: 甘草由来の腸管免疫調節多糖の化学的性状の解析, 日本薬学会第 126 年会 (仙台), 2006. 3. 28~30
- 10) 松本 司, 中村正彦, 松井英則, 山田陽城: 宿主胃表層粘膜細胞由来の乳酸を介した *Helicobacter pylori* の増殖, 第 79 回日本細菌学会総会, 金沢, 2006. 3. 29~31
- 11) 伊藤直樹, 山田陽城, 花輪壽彦: 香蘇散料の神経幹細胞の挙動に与える影響, 第 57 回日本東洋医学会学術総会, 大阪市, 2006. 6. 23~25
- 12) 西郡秀文, 坂田幸治, 金 成俊, 山田陽城, 石野尚吾, 花輪壽彦: 煎じ薬レトルトパックの有用性, 第 57 回日本東洋医学会学術総会, 大阪市, 2006. 6. 23~25
- 13) 金 成俊, 高際麻奈未, 坂田幸治, 緒方千秋, 山田陽城, 石野尚吾, 花輪壽彦: 北里研究所東洋医学総合研究所漢方外来における処方解析からみた随証治療の意義 (第 2 報), 第 57 回日本東洋医学会学術総会, 大阪市, 2006. 6. 23~25
- 14) 橋本良子, 永井隆之, 伊藤直樹, 小寺義男, 大石正道, 前田忠計, 花輪壽彦, 山田陽城: ストレス誘発うつ様モデルマウスに対する香蘇散の抗うつ様作用のプロテオーム解析による検討, 第 23 回和漢医薬学会大会, 岐阜市, 2006. 8. 26~27
- 15) 守屋美千代, 松本 司, 清原寛章, 田淵圭章, 帯刀益夫, 山田陽城: 補中益気湯の腸上皮細胞を介した薬効発現メカニズムの解明, 第 23 回和漢医薬学会大会, 岐阜市, 2006. 8. 26~27
- 16) 矢部武士, 稲垣弥生, 伊藤直樹, 永井隆之, 花輪壽彦, 山田陽城: ストレス、及びコルチコステロン負荷による神経幹細胞数の減少に対する加味温胆湯の作用, 第 23 回和漢医薬学会大会, 岐阜市, 2006. 8. 26~27
- 17) 松崎敏明, 清原寛章, 松本 司, 永井隆之, 山田陽城: 炙甘草の腸管免疫調節多糖の構造と作用の解析, 第 23 回和漢医薬学会大会, 岐阜市, 2006. 8. 26~27
- 18) 松本司, 野口昌朗, 清原寛章, 牧野公子, 花輪壽彦, 山田陽城: 粘膜免疫応答に及ぼす補中益気湯エキスの作用, 第 23 回和漢医薬学会大会, 岐阜市, 2006. 8. 26~27
- 19) 伊藤直樹, 蒲生裕司, 及川哲郎, 山田陽城, 花

輪壽彦：香蘇散の脳内 orexin A 産生細胞の挙動に与える影響，第 23 回和漢医薬学会大会，岐阜市，2006. 8. 26～27

- 20) T. Matsumoto, T. Takahashi, M. Nakamura, H. Matsui, K. Tsuchimoto, H. Yamada: Lactic acid from gastric mucosal cell induces the proliferation of *Helicobacter pylori*, EUROPEAN HELICOBACTER STUDY GROUP (EHSG) XIX International Workshop, Poland, 2006. 9. 7～9
- 21) 佐柳友規，矢部武士，山田陽城：In vivo neuroprotective effect of pigment epithelium-derived factor (PEDF)，第 49 回日本神経化学学会大会，名古屋市，2006. 9. 14～16
- 22) 清原寛章，野中一樹，永井隆之，松本 司，山田陽城：補中益気湯の上気道粘膜免疫系作用成分の解析，日本生薬学会第 53 回年会，埼玉県・大宮，2006. 9. 29～30
- 23) 佐柳友規，矢部武士，山田陽城：In vivo neuroprotective effect of pigment epithelium-derived factor (PEDF) against glutamate excitotoxicity and brain ischemia, The 36th Society for Neuroscience, アメリカ(アトランタ), 2006. 10. 13～18
- 24) 清原寛章，松崎敏明，松本 司，山田陽城：食物繊維的糖へのパイエル板免疫機能調節作用賦与のための糖鎖構造情報に関する基盤研究，日本食品免疫学会第 2 回学術大会，東京，2006. 10. 23～24
- 25) N. Kamkaen, Y. Matsuki, C. Ichino, H. Kiyohara and H. Yamada: The isolation of the anti-*Helicobacter pylori* compounds in seeds of *Arctium lappa* Linn., The 7th Joint Seminar Recent Advances in Natural Product Research and Its Application, JSPS-NRCT Core University Program on Natural Medicine in Pharmaceutical Sciences, Toyama, 2006.12. 1～3

その他

- 1) 橋本良子：ストレス誘発うつ様モデルマウスに対する漢方方剤「香蘇散」の抗うつ様作用のプロテオーム解析による検討，第 4 回北里疾患プロテオーム研究会，神奈川(相模原)，2006. 8. 4

-2. 臨床研究部

臨床研究部部長 花 輪 壽 彦 (兼務)
 臨床研究部部長代理 及 川 哲 郎 (兼務)
 臨床研究部室長 日 向 須美子 (専任)
 研究員 遠 藤 真 理 (専任)
 伊 藤 直 樹 (専任)

金 成 俊 (兼務)
 坂 田 幸 治 (兼務)
 鍼灸研究室室長 石 野 尚 吾 (兼務)
 研究員 伊 藤 剛 (兼務)
 石 原 武 (兼務)
 小 山 基 (兼務)
 柳 澤 紘 (兼務)
 掛 川 一 五 (兼務)
 漢方研究室室長 村 主 明 彦 (兼務)
 研究員 伊 藤 剛 (兼務)
 鈴木 邦 彦 (兼務)
 早 崎 知 幸 (兼務)
 高 橋 裕 子 (兼務)
 五 野 由佳理 (兼務)
 関 口 敦 子 (兼務)
 有 島 武 志 (兼務)
 斉 藤 絵 美 (兼務)
 石 井 恵 美 (兼務)
 柳 澤 紘 (兼務)
 頼 建 守 (兼務)
 早 崎 理 香 (兼務)
 櫻 井 正 智 (兼務)
 八 代 忍 (兼務)
 大 坪 眞 紀 (兼務)
 大学院生 小田口 浩
 若 杉 安希乃
 伊 東 秀 憲
 正 田 久 和
 蒲 生 裕 司
 星 野 卓 之
 渡 邊 浩 二
 井 上 愛 子
 米 田 吉 位
 伊 藤 香 織
 杉 崎 麻 耶
 住母家 沙 織
 田 中 絵 美
 小 林 友 依
 原 田 郁 代

研究概要

臨床研究部は、漢方診療部および鍼灸診療部との連携のもとで、漢方薬、鍼刺激の臨床効果の評価を行うと共に、その作用機序の解明や新たな薬効の開発を目的とした臨床研究、基礎研究を行っている。そのため、専任のスタッフのみならず、医師、鍼灸師、薬剤師等の多くが兼務研究員として参画し、以下の研究を行っている。当研究部の研究テーマは多岐にわたっているが、大きく分けると下記のようにまとめられる。

1. 消化管に及ぼす漢方薬の影響に関する研究

(1) 機能性消化管疾患に対する漢方処方薬の薬効評価

漢方薬は胃腸によいとされるが、漢方処方が消化管機能にどのような影響を及ぼしているかという点については、これまで十分なデータが示されてこなかった。当研究部では Functional dyspepsia や過敏性腸症候群といった機能性消化管疾患に焦点を当て、胃排出機能や腸管ガス量の測定などにより、漢方処方の薬効評価を試みている。

(2) 呼気試験を用いた消化機能研究

¹³C化合物による呼気試験を用いて、漢方処方の消化機能に及ぼす影響を研究している。

(3) 気剤の炎症性腸疾患に対する作用の検討

近年、年々増加しつつある潰瘍性大腸炎等の炎症性腸疾患は、その病因の一つとしてストレスが深く関係することが知られていることから、気剤に分類される漢方薬により腸炎が改善する可能性が考えられる。現在動物モデルを用いて、気剤の炎症性腸疾患腸管機能に対する作用について検討を行っている。

2. 精神神経疾患を中心とした気剤の薬効評価、気の科学的解明

(1) 漢方薬および生薬の香りの中樞神経系に対する作用の解析

漢方薬および生薬の香りのうつ症状に対する効果を動物モデルを用いて検討し、その詳細な作用メカニズムを様々な実験手法を用いて多角的に研究している。

(2) 不安に対する気剤の効果の検討

東洋医学のみならず、精神医学、心理学、神経科学の知見を駆使して、不安に対する気剤の作用機序について検討している。

(3) 気の科学的解明

漢方医学における evidence の作成手法をテーマに研究を行っている。

(4) 気剤の効果の客観的評価

気血水理論の中で、「気」の解明は最も遅れている。我々は、「気」と密接に関連していると考えられる自律神経機能が、「気」の異常とどのように関連しているか、半夏厚朴湯をはじめとする気剤投与でどのような影響を受けるかを、瞳孔反応や心拍変動などを指標にして評価、解析している。

(5) 気管支喘息症状を修飾する心理的ストレスに対する気剤の評価

心身相関を認める気管支喘息患者に気剤を投与し、気剤が喘息に有効か、また喘息患者の心理的側面における改善と身体面での病態の改善との間に相関が認められるか否かについて検討を行って

いる。

3. 悪性腫瘍に及ぼす漢方薬の効果と作用メカニズムの研究

(1) がん転移に対する漢方薬の作用機構の解明

漢方薬によるがん再発防止療法の確立を目指して、がん転移を抑制するような漢方薬をスクリーニングし、その作用機構を解析している。

(2) がん化学療法の副作用軽減に関する臨床研究

がん化学療法に伴う造血障害や末梢神経障害などの副作用軽減に、漢方薬の併用が有効かどうか臨床的に検証を行っている。

4. 婦人科系疾患に用いられる漢方薬の作用機序解明

更年期障害に用いられる漢方薬がエストロゲン様活性を有することを明らかにした。このような漢方薬はエストロゲン受容体に結合するのか、また、更年期障害モデルマウスに対してどのような効果を示すのかを検討している。

5. 冷え症の温熱生理学的解析

未だ科学的解明がされていない冷え症について、その病態と漢方方剤の有用性について臨床研究を行っている。

5. 高血圧に対する漢方薬の効果

漢方薬に降圧効果があるか、効果に証との関連があるかについて検討している。

原著論文・総説

- 1) 及川哲郎, 早崎知幸, 頼建守, 花輪壽彦: 胃の痛み、不快に清熱解鬱湯が有効であった3症例, 漢方の臨床, 53, 1360-1363, 2006
- 2) Watanabe, K., Hyuga, S., Hyuga, M., Kawanishi, T., and Hanawa, T.: Agonistic or antagonistic action of Kampo medicines used for menopausal symptoms at estrogen receptor subtypes, ER α and ER β , J. Trad. Med., 23 (6), 203-207, 2006
- 3) Wang, L., Takaku, S., Wang, P., Hu, D., Hyuga, S., Sato, T., Yamagata, S. and Yamagata, T.: Ganglioside GD1a regulation of caveolin-1 and Stim1 expression in mouse FBJ-LL cells: Augmented expression of caveolin-1 and Stim1 in cells with increased GD1a content, Glycoconj. J., 23, 303-315, 2006
- 4) Ito N., Nagai T., Yabe T., Nunome S., Hanawa T., Yamada H.: Antidepressant-like activity of a Kampo (Japanese herbal) medicine, Koso-san (Xiang-Su-San), and its mode of action via the hypothalamic-pituitary-adrenal axis. Phytomedicine, 13, 658-667. 2006
- 5) Ito, H., Yoneta, Y., Oikawa, T., Odaguchi, H., Wakasugi, A., Shoda, H., Hoshino, T., Watanabe,

K., Gamo, Y. and Hanawa, T: Hangekobokuto (Ban-Xia-Hou-Po-Tang), a Kampo medicine, decreases brachial-ankle pulse wave velocity J.Trad.Med.,23 (5), 173-177, 2006

- 6) H. Odaguchi, A. Wakasugi, H. Ito, H. Shoda, Y. Gono, F. Sakai, T. Hanawa: The efficacy of goshuyuto, a typical Kampo (Japanese herbal medicine) formula, in preventing episodes of headache. Current Medical Research and Opinion, 22 (8), 1587-1597, 2006
- 7) Wakasugi, A., Odaguchi, H., Shoda, H., Ito, H., and Hanawa, T., Effect of Kampo medicine on pupillary dynamics and heart rate variability: establishment of an objective evaluation method., Auton. Nerv. Syst., 43, 424-430, 2006
- 8) Wakasugi, A., Odaguchi, H., Shoda, H., Ito, H., Gamo, Y., Hoshino, T., Watanabe, K., and Hanawa, T., Differentiation between Hangekobokuto and Kososan based on pupillary dynamics - Evaluation of autonomic nerve function - ., J. Trad. Med., 23, 132-140, 2006

学会発表・研究会発表

- 1) 及川哲郎, 伊藤剛, 星野卓之, 小山秀彦, 花輪壽彦: 腸管ガス量に及ぼす半夏厚朴湯の効果 ~ FD 患者を中心とした検討~, 第 92 回日本消化器病学会総会, 北九州, 2006. 4. 21.
- 2) 日向須美子, 熊谷由紀絵, 日向昌司, 渡辺浩二, 川西徹, 花輪壽彦: 婦人科系疾患の治療に用いられる漢方処方ofエストロゲン様活性の解析, 第 57 回日本東洋医学会学術総会, 大阪, 2006. 6. 23-25
- 3) 渡辺浩二, 日向須美子, 日向昌司, 川西徹, 花輪壽彦: 婦人科更年期頻用漢方処方ofエストロゲン受容体 α 及び β に対するアゴニストあるいはアンタゴニスト作用の解析, 第 57 回日本東洋医学会学術総会, 大阪, 2006. 6. 23-25
- 4) 遠藤真理, 花輪壽彦: 芍薬甘草湯の芍薬と甘草の効果的な配合比の検討, 第 57 回日本東洋医学会学術総会, 大阪, 6. 23-25
- 5) 伊藤直樹, 山田陽城, 花輪壽彦: 香蘇散料の神経幹細胞の挙動に与える影響, 第 57 回日本
- 6) 伊藤秀憲, 米田吉位, 及川哲郎, 小田口浩, 若杉安希乃, 正田久和, 蒲生裕司, 星野卓之, 渡辺浩二, 石野尚吾, 花輪壽彦: 半夏厚朴湯の脈波伝播速度 (PWV) に与える影響 (第 3 報), 第 57 回日本東洋医学会学術総会東洋医学会学術総会, 大阪, 2006. 6. 23-25
- 7) 小田口浩, 若杉安希乃, 正田久和, 伊東秀憲, 蒲生裕司, 渡辺浩二, 星野卓之, 花輪壽彦: 酸素飽和度と心拍変動で評価した香蘇散と半夏厚朴湯の相違, 第 57 回日本東洋医学会学術総会東洋医学会学術総会, 大阪, 2006. 6. 23-25
- 8) 小田口浩, 花輪壽彦: 慢性頭痛患者に対する呉茱萸湯 (TJ-31) の Randomized Controlled Trial について, 第 12 回臨床東洋医学研究会大阪, 2006. 6. 23
- 9) 及川哲郎, 花輪壽彦: 当研究所におけるシェーグレン症候群治療症例の検討, 第 57 回日本東洋医学会総会, 大阪, 2006. 6. 23-25
- 10) 若杉安希乃, 小田口浩, 正田久和, 伊東秀憲, 蒲生裕司, 星野卓之, 渡辺浩二, 花輪壽彦: 半夏厚朴湯の瞳孔反応に及ぼす影響, 第 57 回日本東洋医学会学術総会, 大阪, 2006. 6. 23-25
- 11) 正田久和, 及川哲郎, 高橋裕子, 小田口浩, 若杉安希乃, 伊東秀憲, 蒲生裕司, 星野卓之, 渡辺浩二, 花輪壽彦: 八味丸料が有効だった高齢者気管支喘息の 3 症例第 57 回日本東洋医学会学術総会, 大阪, 2006. 6. 23-25
- 12) 日向須美子, 日向昌司, 関田節子, 及川哲郎, 花輪壽彦: がん細胞の運動及び転移に対する麻黄湯中の主成分の効果, 第 171 回北里研究会, 東京, 2006. 7. 13
- 13) 日向須美子, 日向昌司, 関田節子, 伊東秀憲, 及川哲郎, 花輪壽彦: 麻黄湯の主成分エフェドリンのがんの運動能及び転移能に対する効果, 第 23 回和漢医薬学会大会, 岐阜, 2006. 8. 26-27
- 14) 日向須美子: 臨床応用めざした漢方薬の基礎研究, 第 23 回和漢医薬学会大会奨励賞受賞者講演, 岐阜, 2006. 8. 26-27
- 15) 渡辺浩二, 日向須美子, 日向昌司, 川西徹, 及川哲郎, 花輪壽彦: 更年期頻用漢方処方ofエストロゲン様活性とエストロゲン受容体 α および β に対する作用の解析, 第 23 回和漢医薬学会大会, 岐阜, 2006. 8. 26-27
- 16) 遠藤真理, 蒲生裕司, 伊藤直樹, 及川哲郎, 花輪壽彦: 潰瘍性大腸炎モデルマウスを用いた甘麦大棗湯の薬効評価の検討, 第 23 回和漢医薬学会大会, 岐阜, 2006. 8. 26-27
- 17) 伊藤直樹, 蒲生裕司, 及川哲郎, 山田陽城, 花輪壽彦: 香蘇散料の脳内 orexin A 産生細胞の挙動に与える影響, 第 23 回和漢医薬学会大会, 岐阜, 2006. 8. 26-27
- 18) 小田口浩, 若杉安希乃, 正田久和, 伊東秀憲, 蒲生裕司, 渡辺浩二, 星野卓之, 及川哲郎, 花輪壽彦: 半夏厚朴湯および柴胡加竜骨牡蛎湯の心臓自律神経バランスおよび全身血流バランスに及ぼす効果の検討, 第 23 回和漢医薬学会大会, 岐阜, 2006. 8. 26-27
- 19) 蒲生裕司, 伊藤直樹, 及川哲郎, 花輪壽彦: マウ

スのガラス玉隠し行動に対する香蘇散料の影響, 第 23 回和漢医薬学会大会, 岐阜, 2006. 8. 26-27

- 20) 若杉安希乃, 小田口浩, 正田久和, 伊東秀憲, 蒲生裕司, 星野卓之, 渡辺浩二, 及川哲郎, 花輪壽彦: 半夏厚朴湯および柴胡加竜骨牡蠣湯の瞳孔自律神経バランスに及ぼす効果の検討, 第 23 回和漢医薬学会大会, 岐阜, 2006. 8. 26-27
- 21) 及川哲郎, 伊藤剛, 星野卓之, 小山秀彦, 花輪壽彦: 腸管ガス量の解析と、漢方薬の薬効評価への応用, 消化管機能セミナー, 札幌, 2006. 10. 12
- 22) 及川哲郎: がんの緩和医療における漢方医学の役割, 第 10 回日本代替医療学会, シンポジウム「がんの緩和医療を考える」, 名古屋, 2006. 12. 10
- 23) 小田口浩, 若杉安希乃, 伊東秀憲, 正田久和, 蒲生裕司, 星野卓之, 渡辺浩二, 及川哲郎, 花輪壽彦: Effect of saikokaryukotsuboreito, a representative Kampo (Japanese herbal medicine) formula for hypertensives, in healthy normotensive individuals The 21st Scientific Meeting Of the International Society of Hypertension, 第 21 回国際高血圧学会福岡, 2006. 10. 15-19
- 24) 小田口浩, 若杉安希乃, 正田久和, 伊東秀憲, 蒲生裕司, 渡辺浩二, 星野卓之, 及川哲郎, 花輪壽彦: 漢方薬の心臓自律神経バランスおよび全身血流バランスに及ぼす効果の検討, 第 59 回日本自律神経学会東京, 2006. 11. 2-3
- 25) 若杉安希乃, 小田口浩, 正田久和, 伊東秀憲, 蒲生裕司, 星野卓之, 渡辺浩二, 及川哲郎, 伊藤剛, 花輪壽彦: 漢方薬が瞳孔反応に及ぼす影響について - 第四報 -, 第 59 回日本自律神経学会総会, 東京, 2006, 11. 2-3
- 26) Sumiko Hyuga, Masashi Hyuga, Hayao Nakanishi, Setsuko Sekita, Tetsuro, Oikawa and Toshihiko Hanawa: Suppression by maoto, a Kampo medicine, of motility and metastatic potential of highly metastatic osteosarcoma cells, The 11th International Congress of Metastasis Research Society, Tokushima Japan, 2006. 9. 3-6
- 27) 星野卓之: 健常者における牛車腎気丸の胃排出能及び消化器症状に及ぼす影響, 第 92 回日本消化器病学会総会, 北九州, 2006, 4. 20-22
- 28) 星野卓之: 13C 化合物による消化管機能検査を用いた漢方処方の薬効評価, 第 48 回日本平滑筋学会総会, 岡山, 2006. 7. 19-21

研究助成金

- 1) 及川哲郎; 平成 18 年度 第 16 回 北里研究所

研究奨励金 (2006 年 7 月 28 日) 30 万円

- 2) 日向須美子: 平成 17 年度 上原記念生命科学財団 研究助成金 (2006 年 3 月 10 日) 500 万円
- 3) 渡辺浩二: 平成 17 年度 上原記念生命科学財団 研究奨励金 (2006 年 3 月 10 日) 200 万円
- 4) 日向須美子: 平成 18 年度 第 16 回 北里研究所 研究奨励金 (2006 年 7 月 28 日) 30 万円
- 5) 伊藤直樹; 平成 18 年度 第 16 回 北里研究所 研究奨励金 (2006 年 7 月 28 日) 20 万円

受賞

日向須美子: 和漢医薬学会奨励賞 受賞 「臨床応用をめざした漢方薬の基礎研究」, 第 23 回和漢医薬学会大会, 岐阜, 2006. 8. 26

-3. 医史学研究部

部長	小曾戸	洋
研究員	友部	和弘
	天野	陽介
	中戸	悦子
客員研究員	猪飼	祥夫
	上村	元顧
	浦山	きか
	大浦	宏勝
	大津	幸恵
	大塚	桂子
	郭	秀梅
	黄	崇修
	小林	健二
	A. Goble	
	鈴木	達彦
	舘野	正美
	戸出	一郎
	西巻	明彦
	長野	仁
	野澤	隆幸
	町	泉寿郎
	三橋	かほり
	宮川	浩也
	矢数	芳英

研究概要

当研究部の前身は 1983 年に設置された医史学研究室で, 1992 年 12 月より医史学研究部に昇格し, この下に医史文献研究室が置かれる。東洋医学は古い歴史を持つ伝統医学であるから, 豊富な経験と知識の多くは古文獻の形で伝えられている。従って, 東洋医学を研究し, 現代に十分に応用していくためには, まず歴史背景そして文献資料を把握

し、その本質を明らかにする必要がある。これが当研究部の研究目的とするところで、開設以来、各研究員によって多種多彩な研究が活発になされ、日本医史学会・日本東洋医学会をはじめ、各種の学会で大きな成果を上げている。研究の基本的資料となる文献の整備にも精力を注ぎ、既に日本全国はもとより、外国の特殊研究機関と交流を結び、多くの貴重資料を獲て収蔵している。

学会発表

- 1) 西巻明彦：『傷寒金鏡録』の思想についての考察，第 107 回日本医史学会学術大会，大分，2006. 5. 13-14
- 2) 友部和弘，小曾戸洋：「刺絡」の名称に関する考察，第 107 回日本医史学会学術大会，大分，2006. 5. 13-14
- 3) 大浦宏勝：『診病奇佻』中の「無名氏」は島浦和田一である，第 107 回日本医史学会学術大会，大分，2006. 5. 13-14
- 4) 町泉寿郎，小曾戸洋：日本古医書と漢文—大塚文庫資料の文体別形態別分類，第 107 回日本医史学会学術大会，大分，2006. 5. 13-14
- 5) 小曾戸洋，町泉寿郎：曲直瀬養安院文書の研究（四）—補遺，第 107 回日本医史学会学術大会，大分，2006. 5. 13-14
- 6) 天野陽介，宮川浩也，小曾戸洋，石野尚吾：医学古典における「大指間」の意味について，第 107 回日本医史学会学術大会，大分，2006. 5. 13-14
- 7) 猪飼祥夫：『長沙東牌樓東漢簡牘』に見る医学資料，日本医史学会関西支部春季大会，京都，2006. 6. 4
- 8) 猪飼祥夫：『魚腰の取穴部位の史的研究』，全日本鍼灸学会，金沢，2006. 6. 17
- 9) 鈴木達彦，遠藤次郎，中村輝子：「古方派・後世派」と「古方・新方」，第 57 回日本東洋医学会学術総会，大阪，2006. 6. 23-25
- 10) 友部和弘，石野尚吾，花輪壽彦：杉田成卿『済生三方』と刺絡，第 57 回日本東洋医学会学術総会，大阪，2006. 6. 23-25
- 11) 大浦宏勝，宮川浩也，小曾戸洋，石野尚吾，花輪壽彦：杉山真伝流十四管術の効果解明，第 57 回日本東洋医学会学術総会，大阪，2006. 6. 23-25
- 12) 天野陽介，宮川浩也，小曾戸洋，石野尚吾，花輪壽彦：「天下至道談」の再検討，第 57 回日本東洋医学会学術総会，大阪，2006. 6. 23-25

シンポジウム・講演会

- 1) 小曾戸洋：現代日本漢方の歴史的背景，筑豊漢

方研究会第 150 回・麻生飯塚漢方診療第 100 回記念「明日の漢方を考える筑豊シンポジウム」，基調講演，飯塚，2006. 1. 28

- 2) 小曾戸洋：中国医学成立の背景，日本東洋医学会埼玉県部会，教育講演，大宮，2006. 3. 5
- 3) 小曾戸洋：和刻本医書について，人間文化研究機構国文学研究資料館「和刻本（五山版・近世初期刊本）の研究」，特別講演，東京，2006. 7. 25
- 4) 小曾戸洋：湯本求真先生の足跡，第 24 回湯本求真記念学術講演会，特別講演，金沢，2006. 9. 23
- 5) 小曾戸洋：漢薬の起源—出土資料から，日本生薬学会第 53 回年会，特別講演，埼玉，2006. 9. 30
- 6) 小曾戸洋：中国古代の医学史料—とくに馬王堆医書について，明治大学法学研究科特別講義，東京，2006. 10. 18
- 7) 小曾戸洋：馬王堆医学帛書研究の新発見，北京中医薬大学“双中北”医史講座外専学術講座，北京，2006. 10. 25
- 8) 小曾戸洋：江戸時代九州の医人達，日本東洋医学会第 32 回九州支部会学術総会，教育講演，大分，2006. 11. 19
- 9) 小曾戸洋：東洋医学の考え方，逗子市教育委員会生涯学習ずし楽習塾講座，招待講演，逗子，2006. 11. 30

原著研究論文

- 1) 小曾戸洋：漢方医学の歴史と女性医療，産婦人科治療，2006 増刊号，471~475，2006
- 2) 小曾戸洋：『医方集成』『医方大成』の書誌，杏雨，第 9 号，276~290，2006. 4
- 3) 猪飼祥夫：『長沙東牌樓東漢簡牘』に見る医学資料，醫譚，復刊第 85 号，2006. 12. 26

著 書

- 1) 小曾戸洋：江戸時代医学・本草学資料の整理と研究Ⅱ，平成 16~17 年度文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書，2006. 3. 31
- 2) 小曾戸洋：病家須知 3 巻，（社）農文協，監修・分担執筆，2006. 10

その他

- 1) 小曾戸洋：目で見える漢方史料館（209）半井広明筆の三皇像，漢方の臨床，53 巻 1 号，2~4，2006. 1
- 2) 小曾戸洋，町泉寿郎：目で見える漢方史料館（211），曲直瀬養安院家の人々（3），漢方の臨床，53 巻 3 号，2-4，2006. 3
- 3) 小曾戸洋：古医書のはなし（12） 傷寒論，伝統医学，9 巻 1 号，36，2006. 3

- 4) 天野陽介,小曾戸洋:目で見る漢方史料館(212),
和田東郭の肖像と墓,漢方の臨床,53巻4号,
2-4,2006.4
- 5) 天野陽介,小曾戸洋:目で見る漢方史料館(213),
荻野元凱の墓,漢方の臨床,53巻5号,2-4,
2006.5
- 6) 町泉寿郎,小曾戸洋:目で見る漢方史料館(214),
志賀潔と安西安周,漢方の臨床,53巻6号,
2-4,2006.6
- 7) 小曾戸洋:古医書のはなし(13) 金匱要略,
伝統医学,9巻2号,36,2006.6
- 8) 小曾戸洋:目で見る漢方史料館(215),湯本求
真の旧蔵書,漢方の臨床,53巻7号,2-4,2006.7
- 9) 小曾戸洋:目で見る漢方史料館(216),熊宗立
の肖像と生没年,漢方の臨床,53巻8号,2-4,
2006.8
- 10) 小曾戸洋,長野仁,町泉寿郎:目で見る漢方史
料館(217),古矢知白の肖像,漢方の臨床,53
巻9号,2-4,2006.9
- 11) 小曾戸洋:古医書のはなし(14) 『小品方』
の発見,伝統医学,9巻3号,41,2006.9
- 12) 小曾戸洋,宮川浩也:目で見る漢方史料館(218),
『難経』の最善本出現,漢方の臨床,53巻10
号,2-4,2006.10
- 13) 小曾戸洋:古医書のはなし(15) 医心方,伝
統医学,9巻4号,41,2006.12